

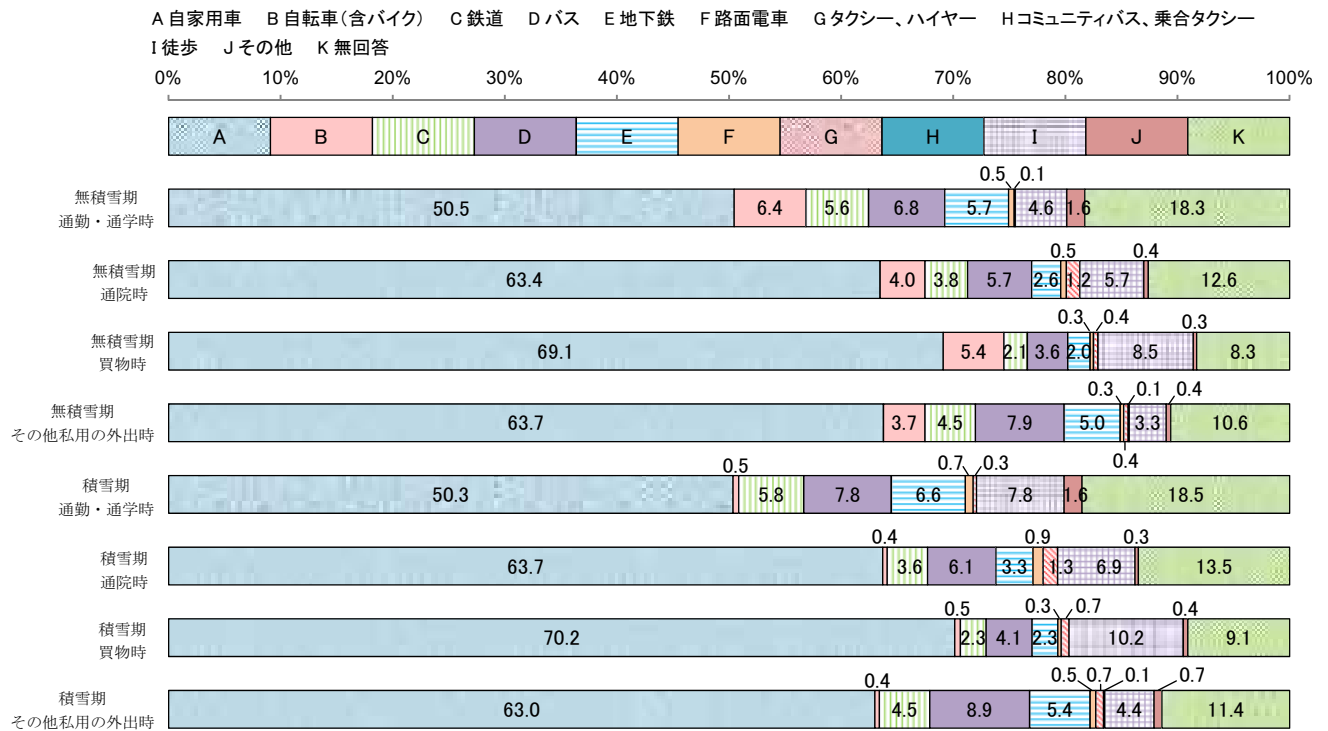
調 査 結 果

調査結果

1 北海道の交通ネットワークについて

問1 あなたが普段の生活（通勤・通学・通院・買物等）で利用している主な移動手段は何ですか。また、その移動手段の利用環境に満足されていますか。「無積雪期（夏季等）」と「積雪期（冬季等）」について、それぞれ外出目的ごとにお答えください。

[日常生活における外出目的ごとの移動手段]



【全体】

無積雪期における通勤・通学時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が、50.5%と最も高く、以下、「バス」(6.8%)、「自転車(含バイク)」(6.4%)、「地下鉄」(5.7%)、「鉄道」(5.6%)、「徒歩」(4.6%)、「その他」(1.6%)、「路面電車」(0.5%)、「タクシー・ハイヤー」(0.1%)の順になっている。

通院時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が63.4%と最も高く、以下、「バス」(5.7%)、「徒歩」(5.7%)、「自転車(含バイク)」(4.0%)、「鉄道」(3.8%)、「地下鉄」(2.6%)、「タクシー・ハイヤー」(1.2%)、「路面電車」(0.5%)、「その他」(0.4%)の順になっている。

買物時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が69.1%と最も高く、以下、「徒歩」(8.5%)、「自転車(含バイク)」(5.4%)、「バス」(3.6%)、「鉄道」(2.1%)、「地下鉄」(2.0%)、「タクシー・ハイヤー」(0.4%)、「路面電車」(0.3%)、「その他」(0.3%)の順になっている。

その他私用の外出時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が63.7%と最も高く、以下、「バス」(7.9%)、「地下鉄」(5.0%)、「鉄道」(4.5%)、「自転車(含バイク)」(3.7%)、「徒歩」(3.3%)、「タクシー・ハイヤー」(0.4%)、「その他」(0.4%)、「路面電車」(0.3%)、「コミュニティバス、乗合タクシー」(0.1%)の順になっている。

また、積雪期における通勤・通学時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が、50.3%と最も高く、以下、「バス」(7.8%)、「徒歩」(7.8%)、「地下鉄」(6.6%)、「鉄道」(5.8%)、「その他」(1.6%)、「路面電車」(0.7%)、「自転車(含バイク)」(0.5%)、「タクシー・ハイヤー」(0.3%)の順になっている。

通院時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が63.7%と最も高く、以下、「徒歩」(6.9%)、「バス」(6.1%)、「鉄道」(3.6%)、「地下鉄」(3.3%)、「タクシー・ハイヤー」(1.3%)、

「路面電車」(0.9%)、「自転車(含バイク)」(0.4%)、「その他」(0.3%)の順になっている。

買物時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が70.2%と最も高く、以下、「徒歩」(10.2%)、「バス」(4.1%)、「鉄道」(2.3%)、「地下鉄」(2.3%)、「タクシー、ハイヤー」(0.7%)、「自転車(含バイク)」(0.5%)、「その他」(0.4%)、「路面電車」(0.3%)の順になっている。

その他私用の外出時の移動手段としては、「自家用車」と答えた人の割合が63.0%と最も高く、以下、「バス」(8.9%)、「地下鉄」(5.4%)、「鉄道」(4.5%)、「徒歩」(4.4%)、「タクシー、ハイヤー」(0.7%)、「その他」(0.7%)、「自転車(含バイク)」(0.4%)、「路面電車」(0.5%)、「コミュニティバス、乗合タクシー」(0.1%)の順になっている。

こうした結果から分かるように、日常生活においては、年間を通して自家用車が主な交通手段となっている。

【圏域別】

無積雪期における通勤・通学の移動手段として自家用車と答えた人の割合は、他の連携地域に比べて、道央広域連携地域(40.5%)が低く、代わりの移動手段として次に高いのは、地下鉄(9.2%)となっている。通院時及び買物時、その他私用の外出時の移動手段として自家用車と答えた人の割合は、他の連携地域に比べて、道央広域連携地域が低く、代わりの移動手段として次に高いのは、通院時(7.7%)及び買物時(11.8%)が徒歩で、その他私用の外出時がバス(11.1%)となっている。

積雪期における通勤・通学の移動手段として自家用車と答えた人の割合は、他の連携地域に比べて、道央広域連携地域(40.0%)が低く、代わりの移動手段として次に高いのは、地下鉄(10.3%)となっている。通院時及び買物時、その他私用の外出時の移動手段として自家用車と答えた人の割合は、他の連携地域に比べて、道央広域連携地域が低く、代わりの移動手段として次に高いのは、通院時(9.6%)及び買物時(13.9%)が徒歩で、その他私用の外出時がバス(11.3%)となっている。

【人口規模別】

無積雪期における通勤・通学時及び通院時、買物時、その他私用の外出時の移動手段として自家用車と答えた人の割合は、他の人口規模区分に比べて、札幌市が低く、代わりの移動手段として次に高いのは、通勤・通学時(15.6%)が地下鉄で、通院時(9.1%)及びその他私用の外出時(15.2%)がバスで、買物時が徒歩(11.0%)となっている。

積雪期における通勤・通学時及び通院時、買物時、その他私用の外出時の移動手段として自家用車と答えた人の割合は、他の人口規模区分に比べて、札幌市が低く、代わりの移動手段として次に高いのは、通勤・通学時(17.5%)が地下鉄で、通院時(10.3%)及び買物時(14.8%)が徒歩で、その他私用の外出時がバス(16.0%)となっている。

【性別】

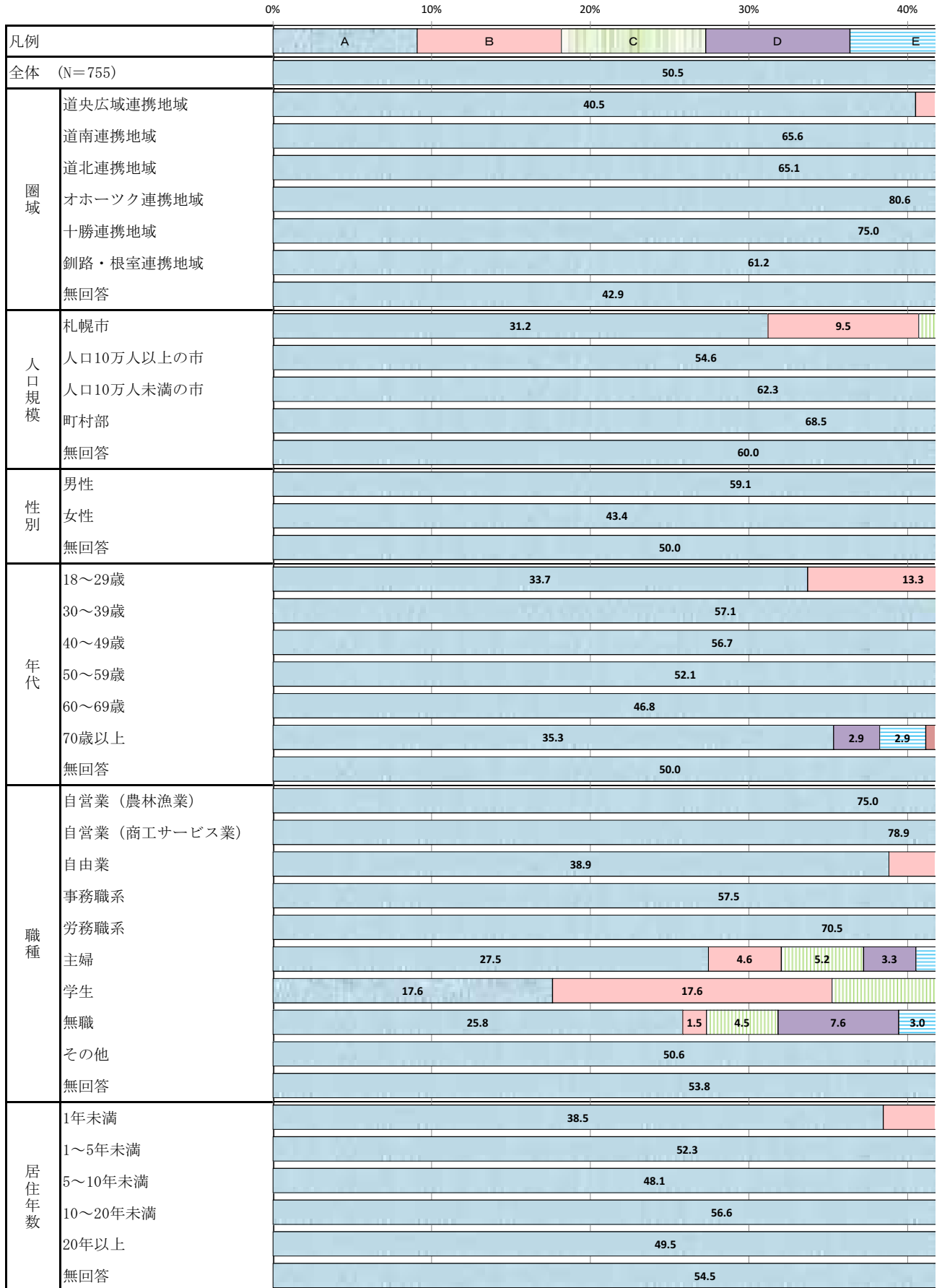
女性は、無積雪期及び積雪期ともに、通勤・通学時及び通院時、買物時、その他私用の外出時の移動手段として自家用車と答えた人の割合が低くなっている。無積雪期で代わりの移動手段として次に高いのは、通勤・通学時が鉄道(6.9%)及びバス(6.9%)で、通院時(7.8%)及びその他私用の外出時(10.5%)がバスで、買物時が徒歩(10.8%)となっている。積雪期で代わりの移動手段として次に高いのは、通勤・通学時(8.3%)及び通院時(8.1%)、その他私用の外出時(11.0%)がバスで、買物時が徒歩(12.7%)となっている。

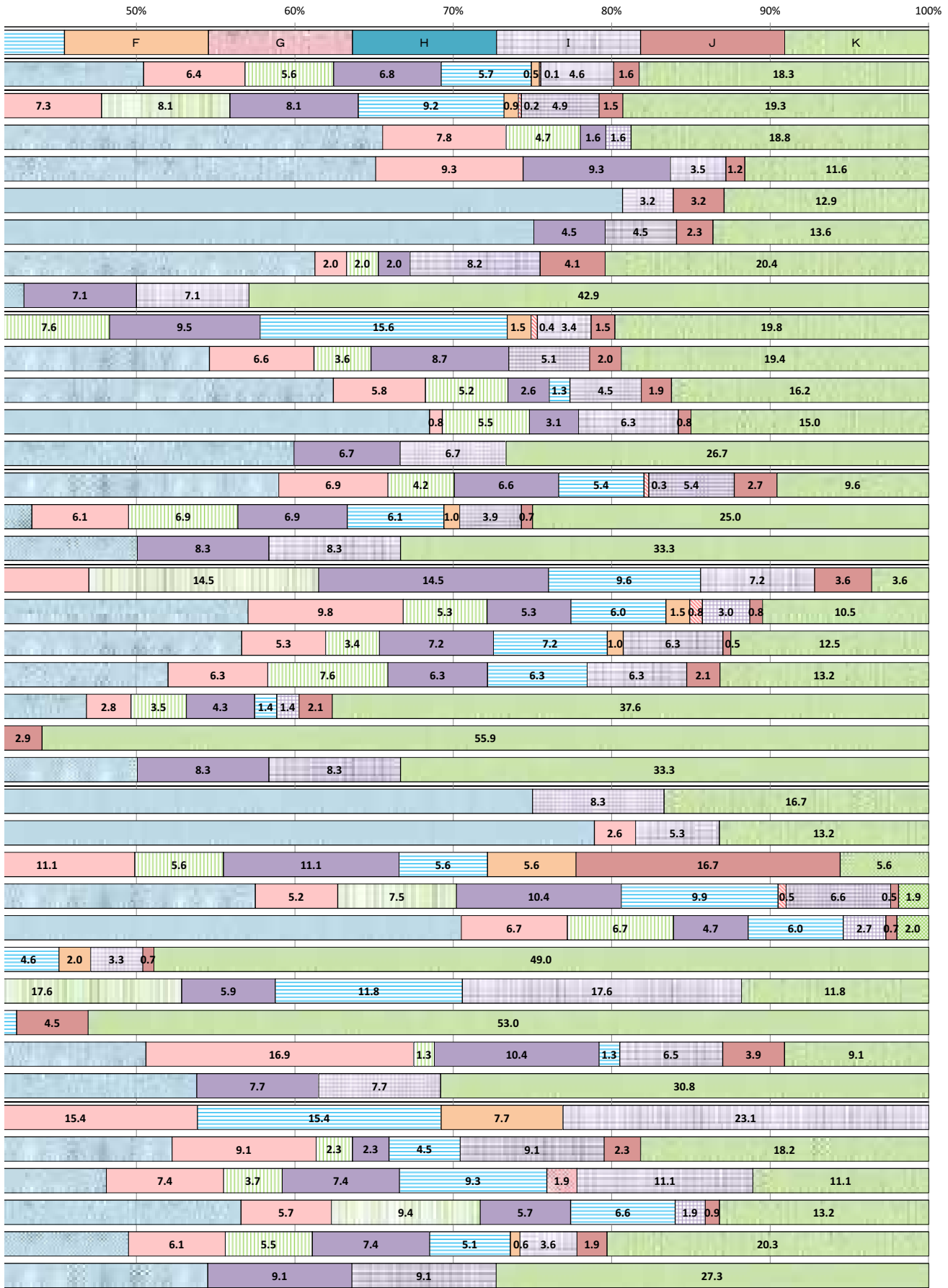
【年代別】

70歳以上では、他の年代に比べ、無積雪期及び積雪期における通院時及び買物時、その他私用の外出時の移動手段として自家用車と答えた人の割合が何れも低くなっている。

無積雪期における通勤・通学時の移動手段

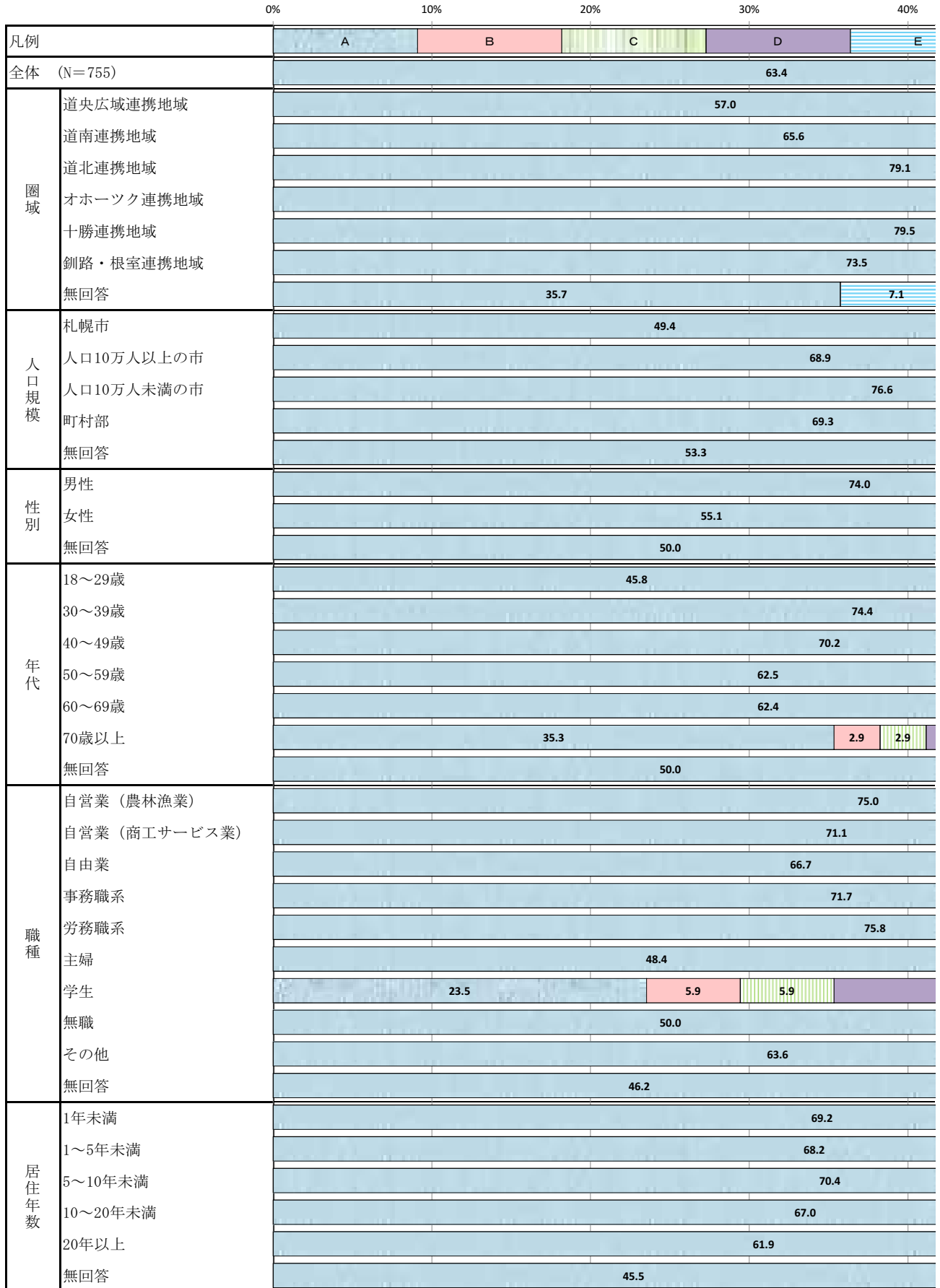
A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

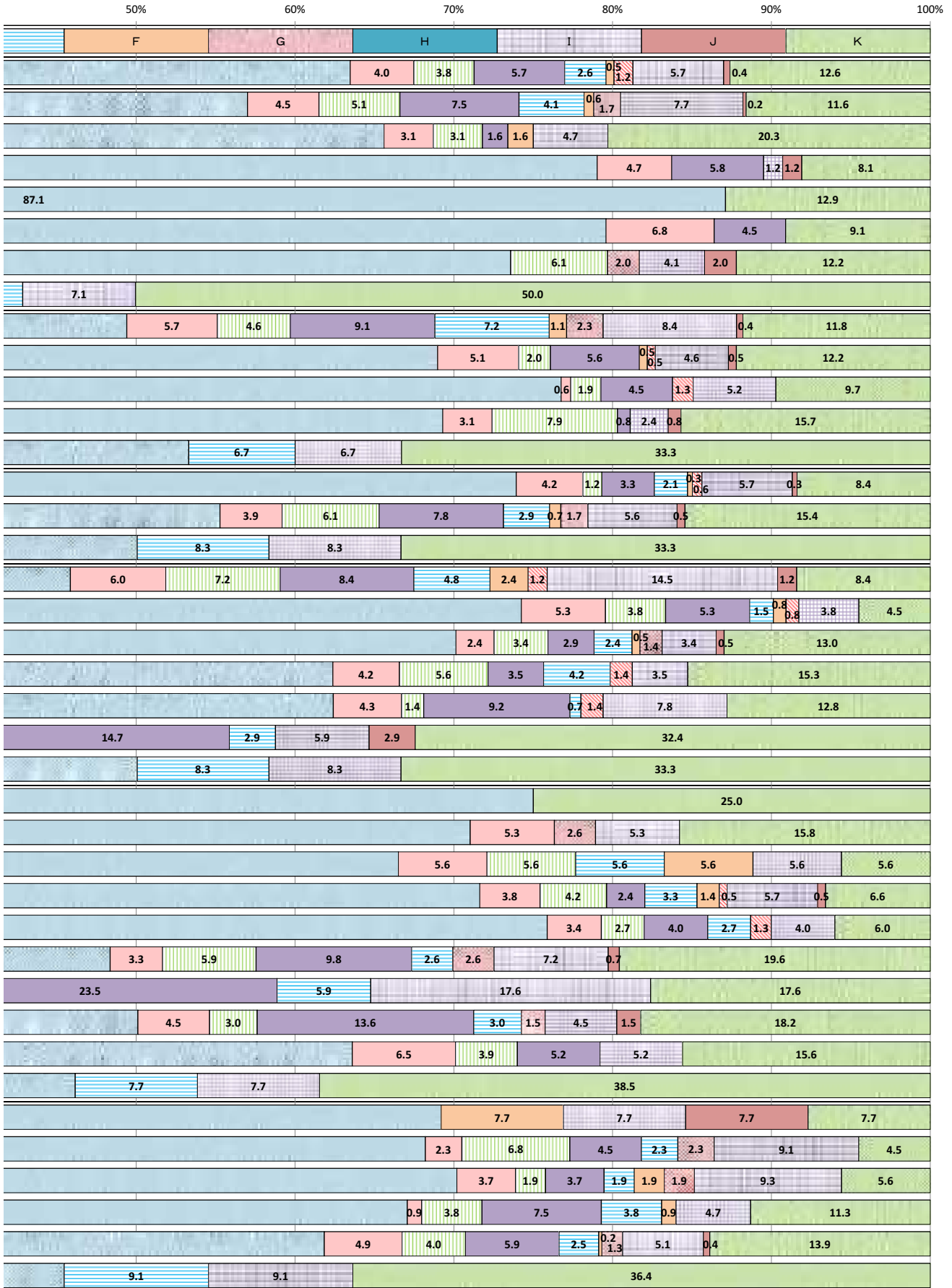




無積雪期における通院時の移動手段

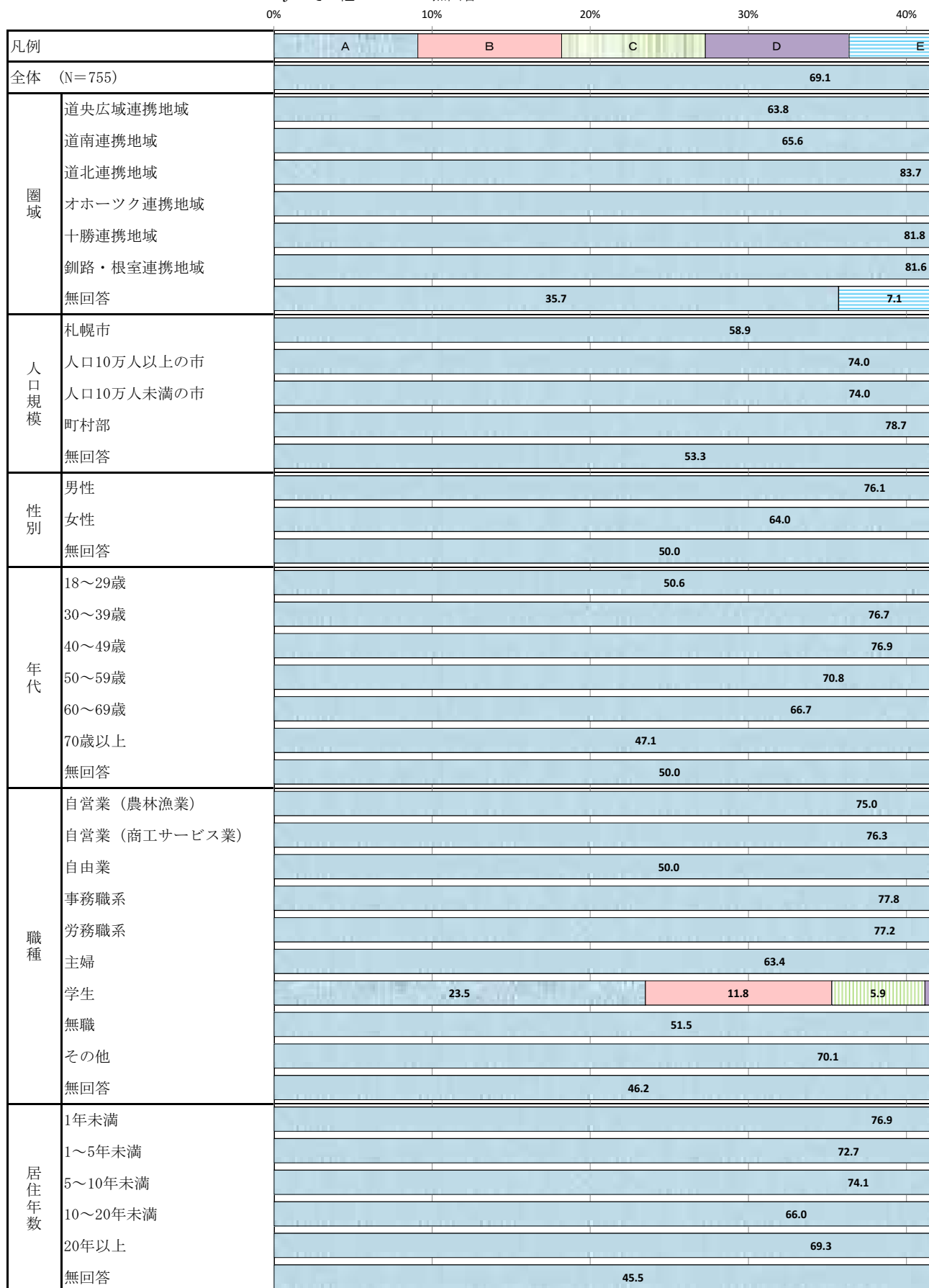
- A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

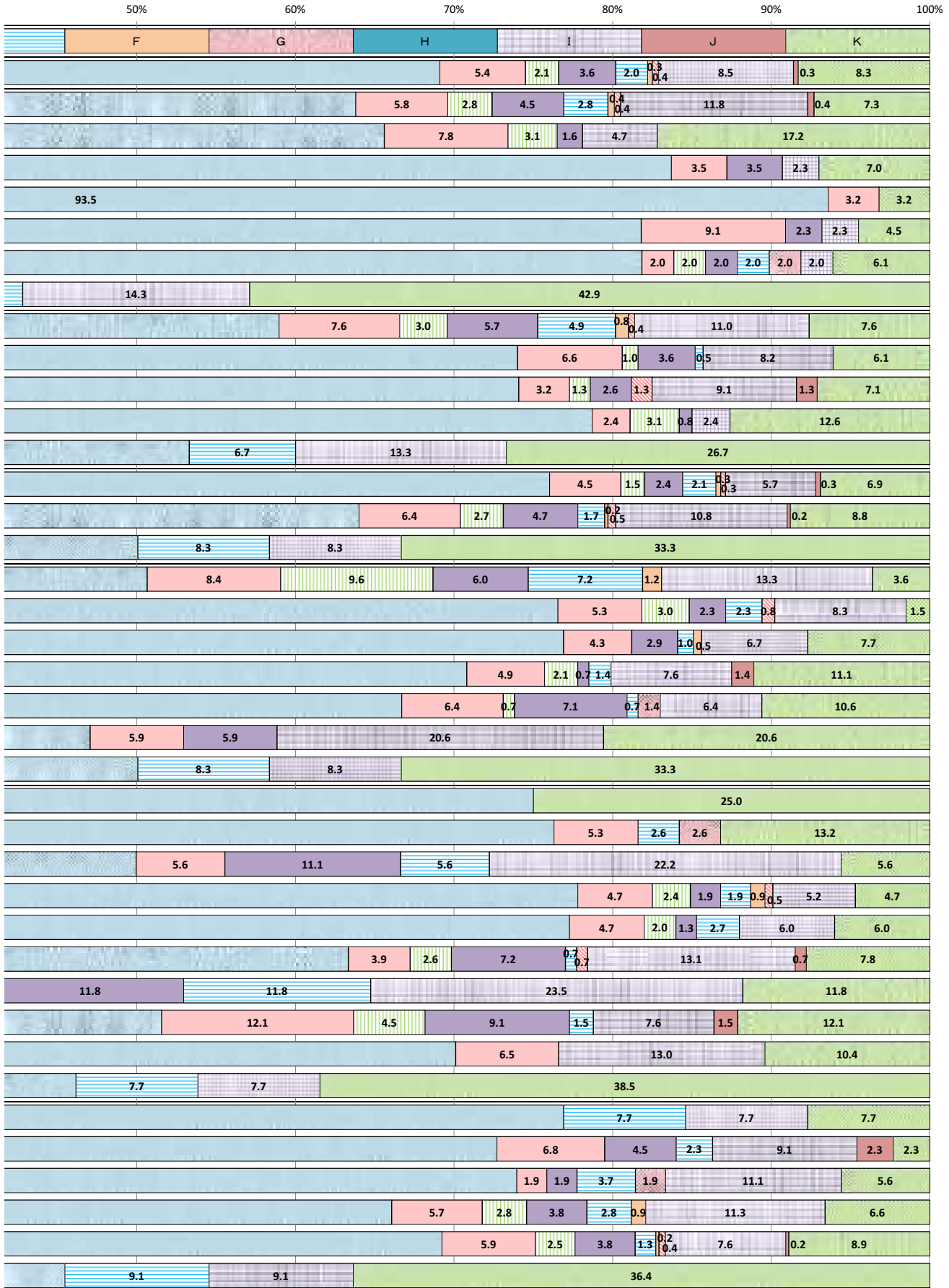




無積雪期における買物時の移動手段

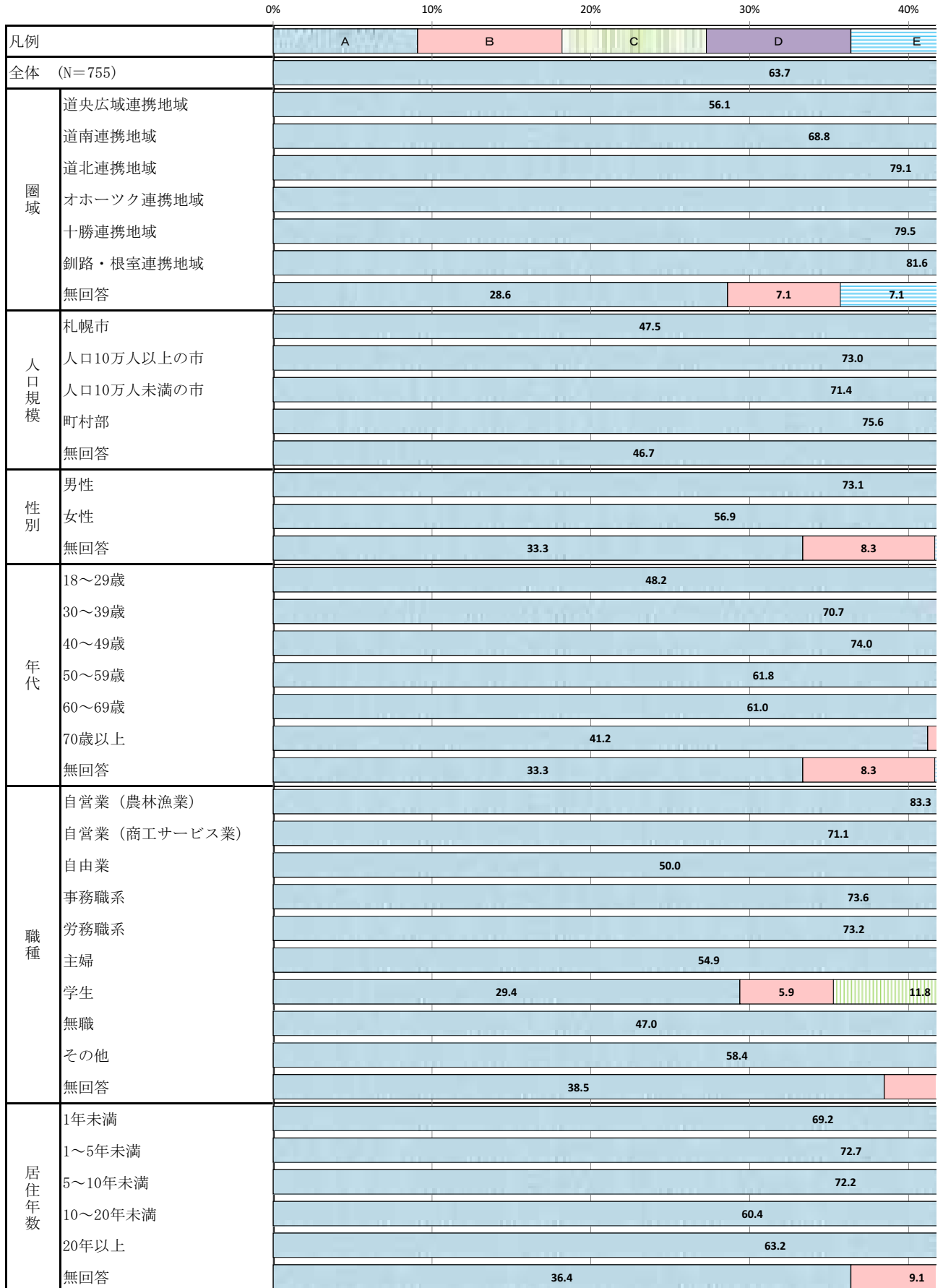
A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

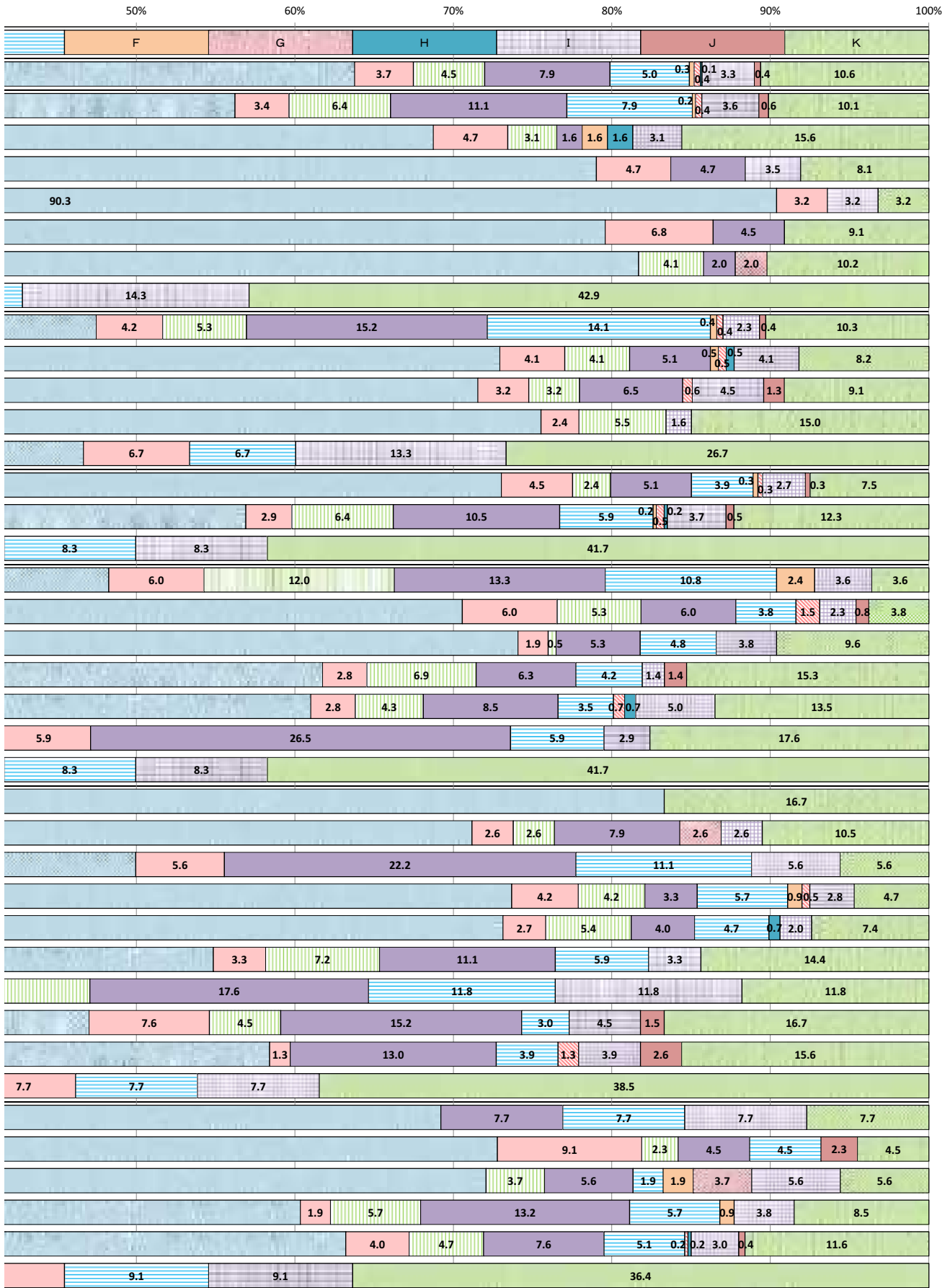




無積雪期におけるその他私用の外出時の移動手段

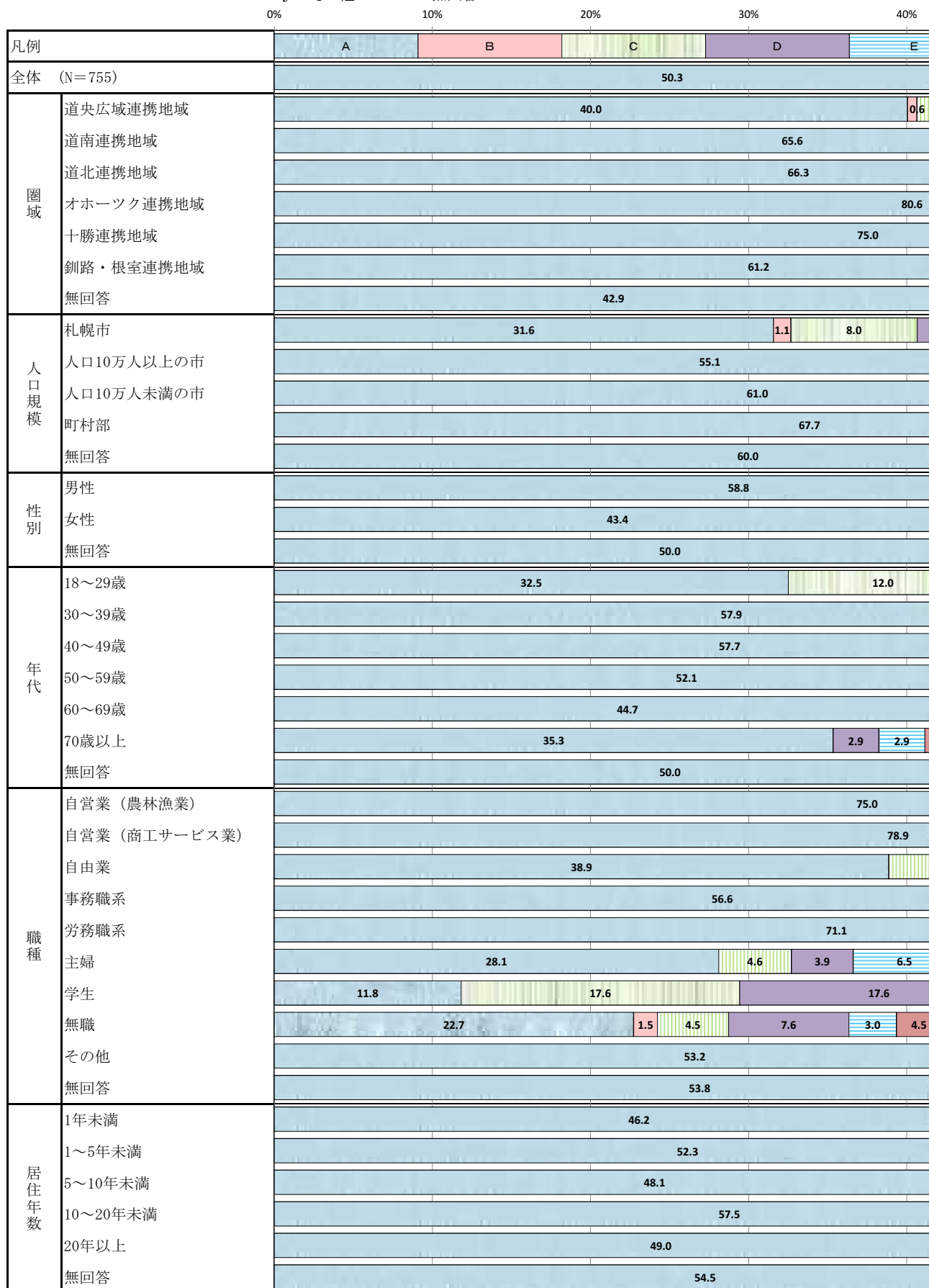
A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

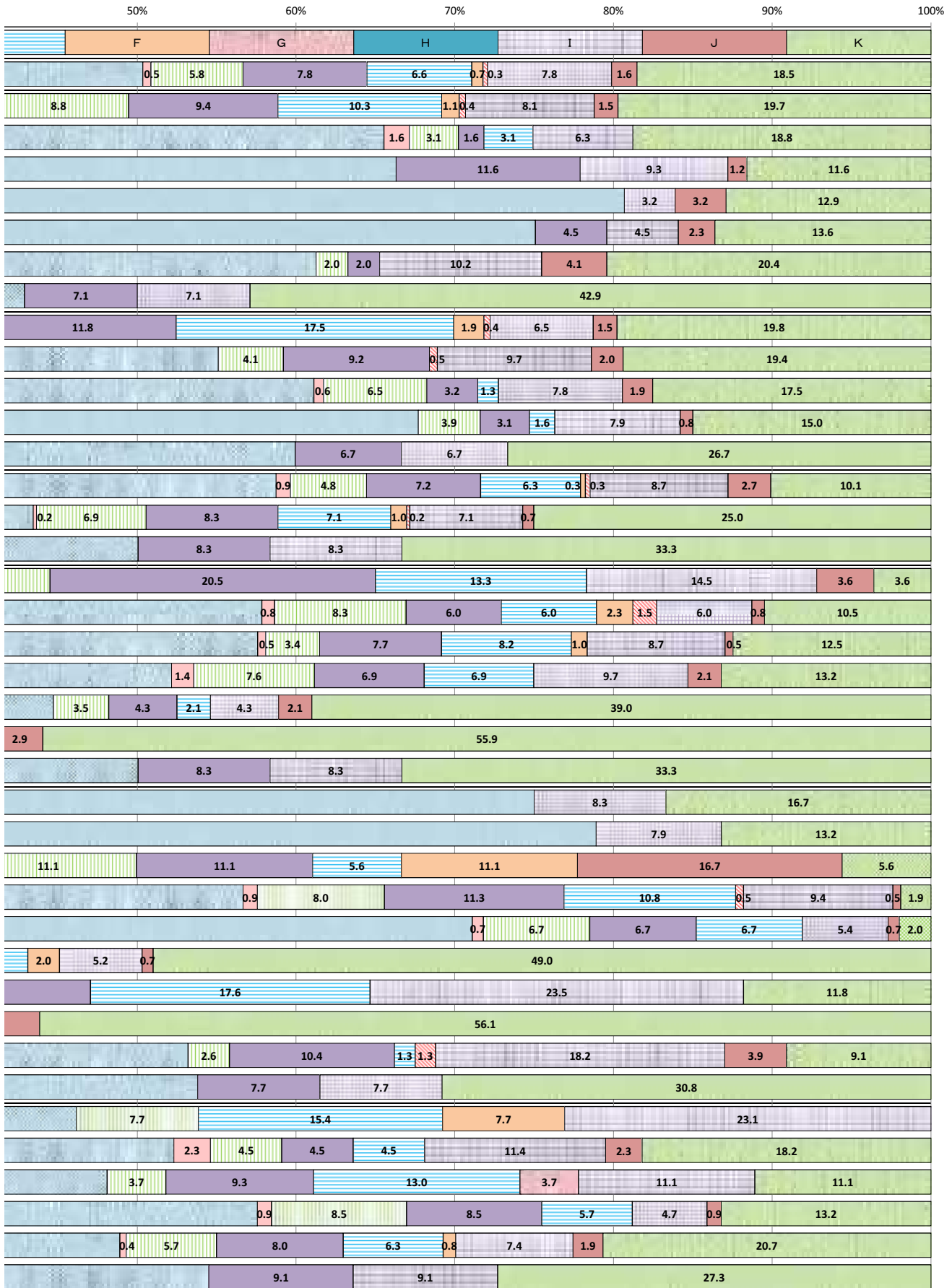




積雪期における通勤・通学時の移動手段

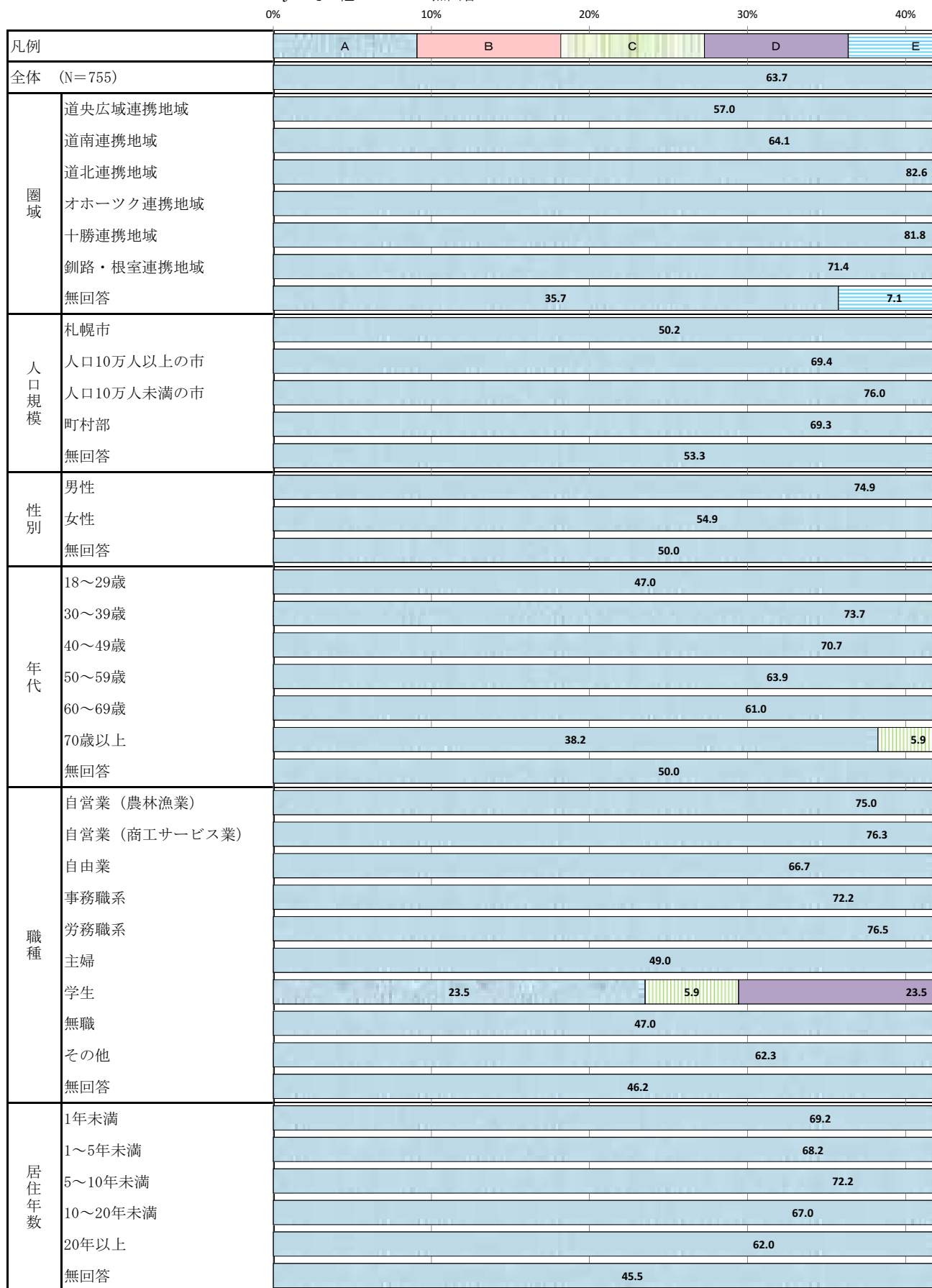
A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

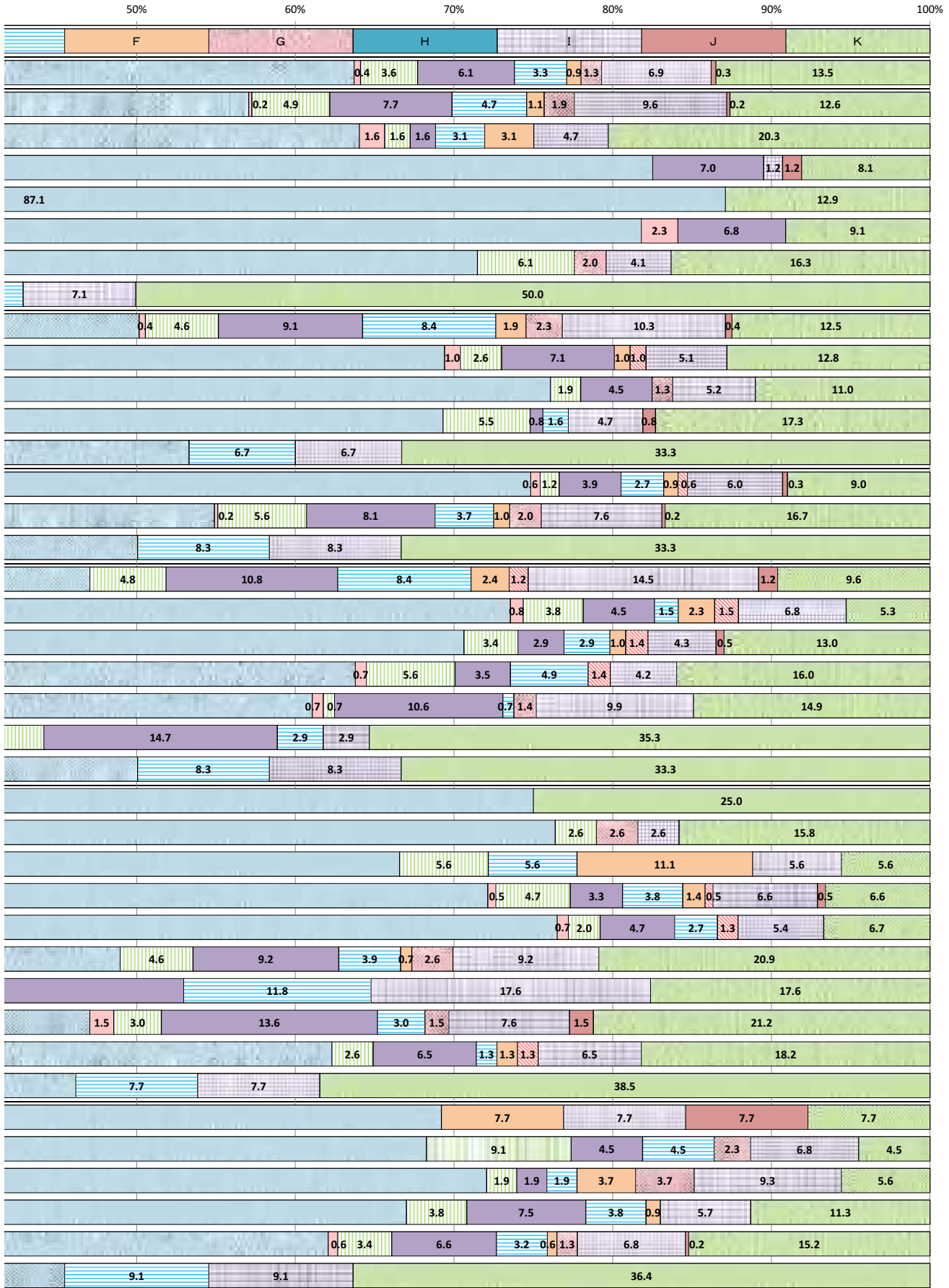




積雪期における通院時の移動手段

A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

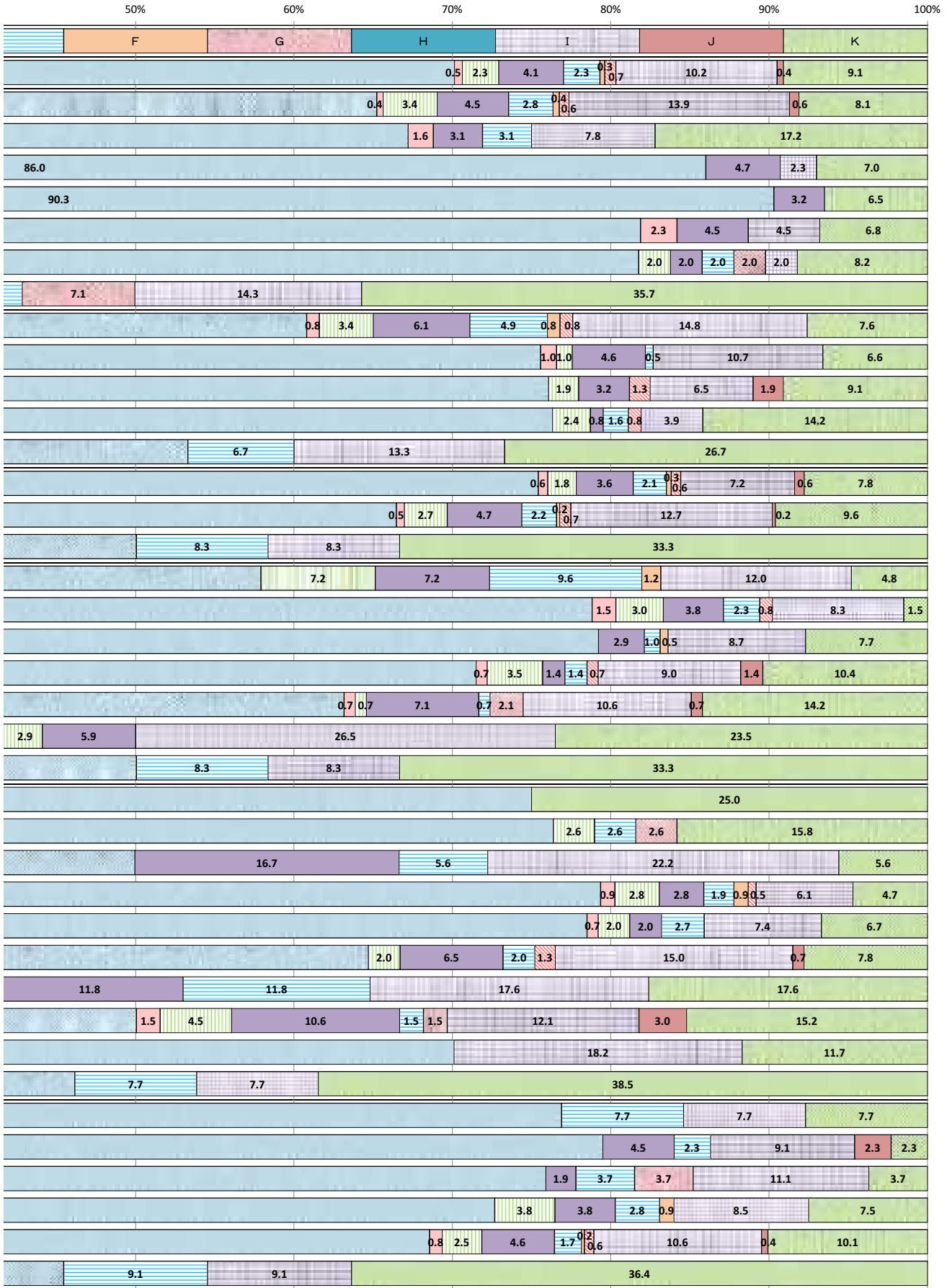




積雪期における買物時の移動手段

A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

		0%	10%	20%	30%	40%
凡例		A	B	C	D	E
全体 (N=755)		70.2				
圏域	道央広域連携地域	65.1				
	道南連携地域	67.2				
	道北連携地域					
	オホーツク連携地域					
	十勝連携地域	81.8				
	釧路・根室連携地域	81.6				
	無回答	35.7				7.1
人口規模	札幌市	60.8				
	人口10万人以上の市	75.5				
	人口10万人未満の市	76.0				
	町村部	76.4				
	無回答	53.3				
性別	男性	75.5				
	女性	66.4				
	無回答	50.0				
年代	18～29歳	57.8				
	30～39歳	78.9				
	40～49歳	79.3				
	50～59歳	71.5				
	60～69歳	63.1				
	70歳以上	41.2				
	無回答	50.0				
職種	自営業(農林漁業)	75.0				
	自営業(商工サービス業)	76.3				
	自由業	50.0				
	事務職系	79.2				
	労務職系	78.5				
	主婦	64.7				
	学生	35.3				5.9
	無職	50.0				
	その他	70.1				
	無回答	46.2				
居住年数	1年未満	76.9				
	1～5年未満	79.5				
	5～10年未満	75.9				
	10～20年未満	72.6				
	20年以上	68.7				
	無回答	45.5				

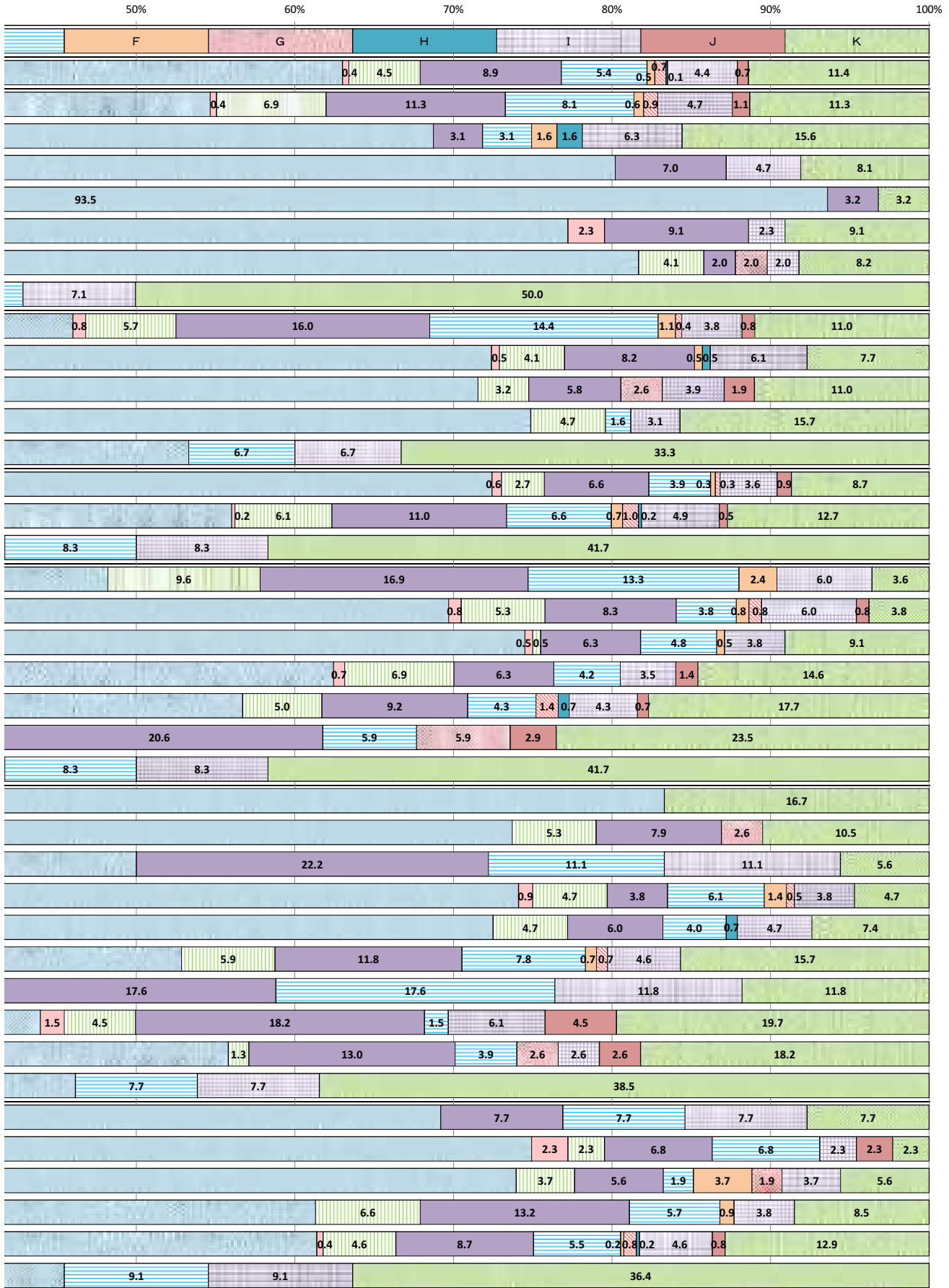


積雪期におけるその他私用の外出時の移動手段

A 自家用車 B 自転車(含バイク) C 鉄道 D バス E 地下鉄
 F 路面電車 G タクシー、ハイヤー H コミュニティバス、乗合タクシー I 徒歩
 J その他 K 無回答

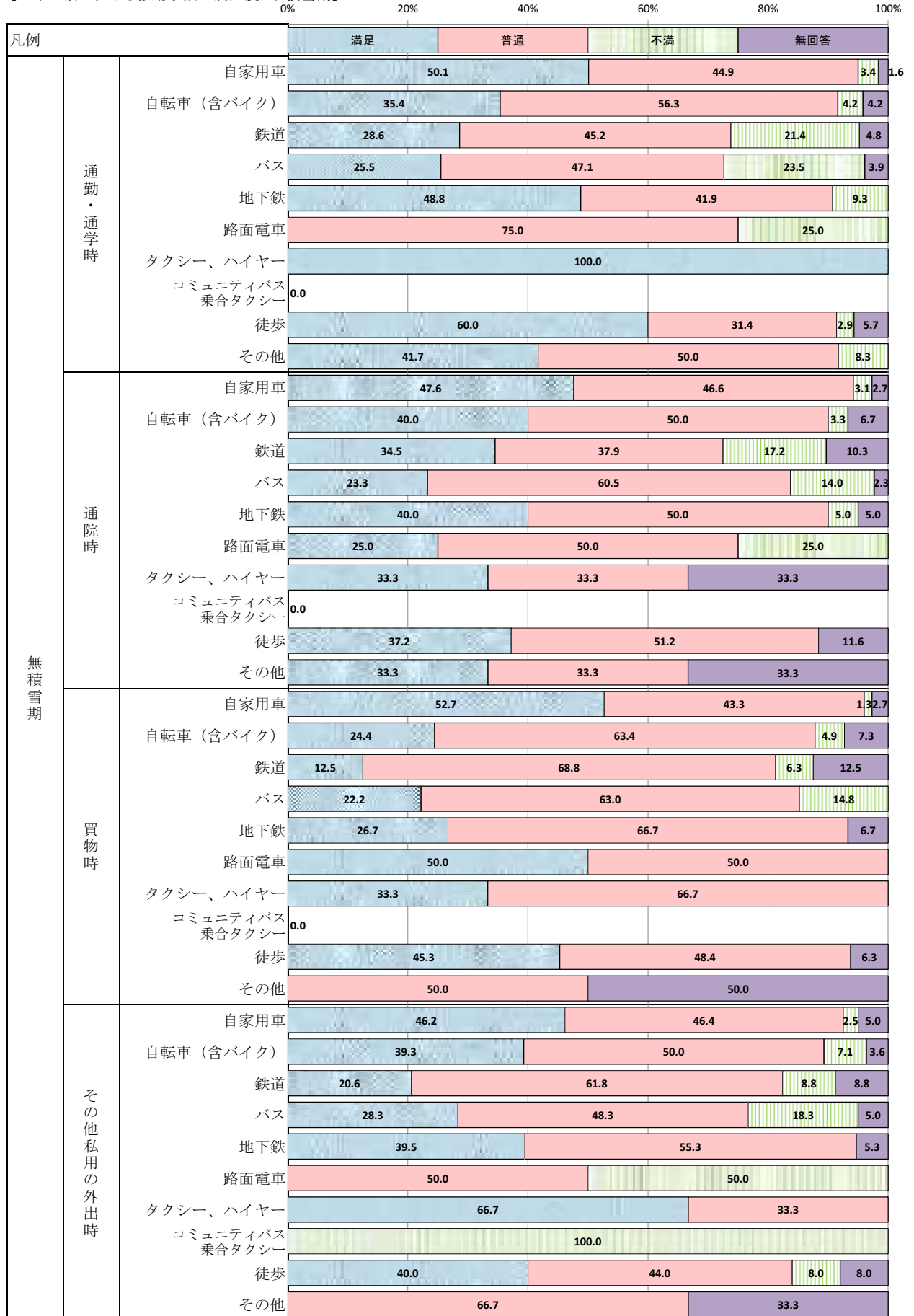
0% 10% 20% 30% 40%

凡例		A	B	C	D	E
全体 (N=755)		63.0				
圏域	道央広域連携地域	54.6				
	道南連携地域	68.8				
	道北連携地域	80.2				
	オホーツク連携地域					
	十勝連携地域	77.3				
	釧路・根室連携地域	81.6				
	無回答	35.7				7.1
人口規模	札幌市	46.0				
	人口10万人以上の市	72.4				
	人口10万人未満の市	71.4				
	町村部	74.8				
	無回答	53.3				
性別	男性	72.5				
	女性	55.9				
	無回答	41.7				
年代	18～29歳	48.2				
	30～39歳	69.9				
	40～49歳	74.5				
	50～59歳	62.5				
	60～69歳	56.7				
	70歳以上	38.2				2.9
	無回答	41.7				
職種	自営業(農林漁業)	83.3				
	自営業(商工サービス業)	73.7				
	自由業	50.0				
	事務職系	74.1				
	労務職系	72.5				
	主婦	52.9				
	学生	29.4			11.8	
	無職	43.9				
	その他	55.8				
	無回答	46.2				
居住年数	1年未満	69.2				
	1～5年未満	75.0				
	5～10年未満	74.1				
	10～20年未満	61.3				
	20年以上	61.5				
	無回答	45.5				



[日常生活における移動手段の満足度]

[日常生活における移動手段の満足度 無積雪期]



[日常生活における移動手段の満足度 積雪期]

